

## 定期報告(ウルグアイ内政・外交:2015年10月)

### 【内政】

#### 1 大麻規制管理

1日、ロバージョ大統領府副長官が記者会見し、大麻規制管理法(法律第19.172号)に基づき、2つの企業に対し非医療用向精神大麻の生産及び販売を認可したと発表した。同副長官は、薬局での大麻販売開始までにかかる期間は8カ月を超えることはなく、また政府は大麻消費による健康リスクについてのキャンペーンを行う予定であると述べた。

#### 2 五カ年予算計画法案

15日、下院にて五カ年予算計画法案が可決し、同法案は上院に送られた。行政府の原案のうち、軍・警察等治安機関に関係する二つの条文が与党3議員の反対により採択に至らなかった。また、教育予算が当初案より若干の増額、包括的弱者ケア制度向け予算が若干の減額となった。

### 【外交】

#### 1 シオリ次期アルゼンチン大統領候補のウルグアイ訪問

13日、ダニエル・シオリ次期アルゼンチン大統領候補(与党ペロン党、現ブエノスアイレス州知事)がウルグアイを訪問、バスケス大統領と会談した。共同記者会見における発言概要は以下のとおり。

##### (1)バスケス大統領

シオリ候補の当国訪問を光栄に思う。真心のこもった会談を実現できた。我々は両国共通のテーマについて話し合った。両国はスペインからの独立闘争という共通の歴史を有しており、世界に類を見ない深い兄弟関係にある。

##### (2)シオリ候補

我々は、タバレ(注:バスケス大統領のファーストネーム)との個人的・政治的親近感を通じて、両国民に裨益する政策に取り組むことができると考えている。この地域を投資及び持続的な社会・経済・生産にとり、ますます魅力的な場所にする取り組みを新たに始める時期が近づいている。

#### 2 ウルグアイの国連安保理非常任理事国選挙当選

15日、国連総会にて安保理非常任理事国選挙が行われ、ウルグアイが2016~17年非常任理事国に当選した(185票)。同日付大統領府プレスリリースによれば、常駐代表はロセリ在カナダ・ウルグアイ大使となる見込み。ウルグアイの安保理非常任理事国入りは50年ぶり2度目。

### 3 対日関係

#### (1) バスケス大統領訪日に関するニン・ノボア外相の発言

21日付大統領府プレスリリースによれば、ニン・ノボア外相は非公式記者会見において、11月のバスケス大統領訪日について概要次のとおり述べた。

ア バスケス大統領は、フランスを訪問の後、日本を公式訪問する。今次訪日は安倍晋三総理及び明仁天皇陛下の招待を受けてのもの。

イ 大統領の訪日は、ウルグアイ産牛肉の日本市場参入実現に弾みをつける。ウルグアイ産牛肉は現在、日本側の審査を受けている段階にある。今後数カ月のうちに牛肉の日本への輸出が実現すると予測される。世界で最も要求水準が高く、また高価格品が取引される日本市場へのウルグアイ産牛肉の参入実現まであと僅かである。

ウ 日本市場の需要は巨大であり、ワクチン接種清浄国である当国産牛肉の輸出が認められ、骨なし又は骨付き牛肉の日本市場へのアクセスが成就することはウルグアイにとり極めて重要である。政府の役割は民間が経済活動を行う市場を開くことである。

#### (2) 日・ウルグアイ投資協定

26日付で大統領府は、日・ウルグアイ投資協定の議会承認を求める法案が行政府から議会に提出された旨プレスリリースを発出した。協定の署名は2015年1月26日、当国外務省において行われ、日本側の国内手続は同年9月11日、参議院本会議において締結することが承認されたことをもって完了。

### 4 バスケス大統領のフランス公式訪問

(1) 28～11月2日、バスケス大統領はフランスを公式訪問し(ニン・ノボア外相、アストリ経済財務相ほか同行)、オランド大統領との首脳会談、8協定への署名、共同宣言の発出、共同記者会見等を行った。また、オランド大統領主催夕食会及び仏企業関係者との会合に出席したほか、OECD及びUNESCO本部を訪問した。ウルグアイはOECD開発センターに新規加盟。

(2) 同行記者団との会見における大統領の発言概要以下のとおり。

ア 仏との歴史的友好関係は、今回の、科学技術、教育、遺伝子研究、通商等に関する7つの二国間協定への署名によって強化された。

イ ウルグアイは、どの政府の下でも常に国家間の紛争の平和的解決と対話を支持し、テロや政治的暴力を拒否してきた。また、国連安定化ミッションの枠組の下で平和のために尽力してきた。

ウ 外遊するたびに、ウルグアイはタバコ消費との闘い、セイバル計画等の政策で信頼されており、ウルグアイ人として敬意を表され評価されていることを感じ、ウルグアイ人であることを誇りに思う。

**【社会】**

ウルグアイにおける合成麻薬(エクスタシー)の消費がヨーロッパ並に増加している。ウルグアイのニュージェネレーション, つまり高学歴者, 科学実験に興味津々な者たちが様々な合成麻薬を消費している。合成麻薬にはアンフェタミン, メタンフェタミン, LSD など様々な麻薬成分が含まれているが, パスタ・バセとは正反対の作用をもたらす。合成麻薬は「個人に作用する」ものであって, パスタ・バセのように攻撃的な作用をもたらすものではない。

(了)